

活動テーマ

横瀬町の地域資源を学生の目線でコンテンツ化

横瀬町全域地区 立教大学観光学部

1 活動目的

町にある資源を学生の視点でコンテンツ化し「日本一歩きたくなる町」の実現、関係人口の増加を目指す。（最終目標は定住人口へ繋げること）

「日本一歩きたくなる町」とは横瀬町の掲げる理想像。公募によって選ばれたオススメのウォーキングコースの紹介や、観光イベントなど”歩きたくなる”ようなウォーキング関連の事業を2021年10月から展開している。

2 活動地域の現状

埼玉県西部、秩父地域に位置し、豊かな自然に囲まれた町。町の面積は約49平方キロメートル、人口は約7,600人であるが、人口の減少や少子高齢化が進み、人口の減少に備える必要がある。都心からのアクセスが良好で、西武秩父線の横瀬駅を利用すれば池袋から最短72分。

横瀬町は「日本一チャレンジする町」を掲げ、上記の特性を活かして町に多様な人材を集め地域活性化に取り組んでいる。

3 活動内容

①地域イベント企画

- ・チャレンジキッチン ENgaWA 調理イベント
- ・里山まるマルシェ（春マルシェ）
- ・夏の自由研究体験イベント、立教企画
- ・里山まるマルシェ（秋マルシェ）
- ・あしがくぼの氷柱立教企画
- ・チャレンジキッチン ENgaWA 調理イベント



②地域イベントの補助

- ・里山まるマルシェ（春マルシェ）
- ・寺坂棚田ホテルかがり火まつり
- ・夏の自由研究体験イベント
- ・里山まるマルシェ（秋マルシェ）
- ・マスカットビンゴウォーク
- ・彼岸花まつり



4 成果

まるマルシェをはじめとする横瀬町の魅力を体感できるウォーキングイベントには、多くのお客様にご来場いただいた。立教大学として企画・出店を行い、地域住民との交流の機会を創出した。例年の反省を踏まえ、今年度は新たな企画を取り入れるなど内容の充実を図った。

5 課題

① 関係人口の継続的な創出

イベント来訪者を一時的な参加に留めず、イベントがない時期にも横瀬町を訪れてもらうことが課題である。そのためには学生自身が地域への理解を深め、横瀬の魅力を主体的に発信していく必要がある。また、他大学のふるさと支援隊との連携などを通じ、若年層の交流・活動機会の拡充にも取り組む余地がある。

② 情報共有体制と地域理解の強化

学生の入れ替わりが多い中で、イベントの目的や地域背景の理解が十分に共有されていない点が課題である。イベント運営に加え、横瀬町の観光資源や地域特性を継続的に調査・共有し、学生視点での活用方法を検討していくことが求められる。

6 次年度以降の計画

① 活動目的・役割の明確化と情報共有

活動前に目的や成果指標（来場者数・満足度・再訪意向など）を学生間で共有し、役割分担を明確化することで主体的に行動できる体制を整える。また、活動後の振り返りを実施し、継続的かつ計画性のある運営につなげる。

② 関係者間の連携・調整合体制の強化

イベント運営においては、観光課や地域関係者との情報共有や認識のすり合わせが重要である。今年度は対応方針や運営内容の共有が十分でない場面も見られたため、事前にイベント概要や当日の流れ、注意事項などを整理し、関係者間で円滑に連携できる体制を整えたい。学生は運営補助にとどまらず、行政と地域をつなぐ調整役としての役割を果たしていくことを目指す。



以上